

- ・造形芸術コース・専門教育科目・立体基礎演習
- ・学校教育実践コース美術教育専修・専門教育科目・彫刻基礎演習

## 立体基礎演習と彫刻基礎演習について

美術教育講座・向川信博

### 1. 授業の概要

立体を造形するうえでの基本的な考え方や見方を学ぶため、粘土を用いて模刻を行った。受講者は、教員養成課程美術専修一回生3名、造形芸術コース一回生11名で、平面のデッサンは全員経験があるが、塑造経験者は数名である。

粘土での作品完成後、石膏取りと、作品台座制作を行った。

制作に入る前の粘土練りや、制作台、心棒造りを各自でおこない、制作終了時ごとに出る石膏くずなど廃棄物もそれぞれが処分するようにし、準備と整理、後片付けを含めて制作とした。終わりに、取り組み姿勢について考え、自己評価を行った。

### 2. 授業の目的

- ・立体造形の基本的な考え方や見方を理解する。
- ・粘土を用いた石膏像の模刻を通して造形の基本的な組み立て方を理解する。
- ・単なるコピー作業ではないことを理解する。
- ・量感を考える。
- ・均衡感を考える。
- ・空間を考える。
- ・心棒をつくる。
- ・石膏取りができる。
- ・電動工具や道具の使用法と安全性を考える。

関連するディプロマ・ポリシー（卒業時の到達目標）：地域社会の造形分野に関する文化振興に貢献するため、高度な技能と豊かな表現能力を身につけている。

### 3. 授業のスケジュール

- 第1回 構成の基本的な観点や、制作過程のガイダンス
- 第2回 心棒の制作と粘土の準備。土練機の使用法と保守、片付け。
- 第3回 クロッキー
- 第4回 肉付け  
～ 粘土完成・講評
- 第8回 石膏取りについて

- 第9回 石膏雌型制作
- 第10回 粘土かき出し
- 第11回 石膏流し込み
- 第12回 割出し
- 第13回 割出し・修整
- 第14回 台座制作
- 第15回 合評・総括

### 4. 用具・材料について

粘土用・石膏用籠、石膏、道具等は用意されている。粘土は、土練機を使用意する。

### 5. 評価について

取り組み姿勢を勘案し、作品によって評価した。作品評価は、質、完成度のみならず制作過程における追求内容なども含めた。

### 6. アンケートについて

授業の最終日に以下の項目で自由記述によるアンケート調査をおこなった。

- ①施設・設備について、②授業内容について、③今回の制作実習で学んだこと、それを今後どのようにいかすか、④その他。

### 7. アンケート結果（受講生が記述した文章をそのまま転記する。）

- ①施設・設備について
  - ・寒い！暖房がもう一つ欲しかった。
  - ・部屋が寒かったです。楽しかったですが
  - ・最近の若者はぜいたくです。暖房はこのままで良いです（笑い）
  - ・少々寒い。どこに触れても粉が付着する。掃除用具などが、もっと充実していれば良いと思う。
  - ・制作環境としては良いと思う。
  - ・石膏くずの処理が大変だった。
  - ・少し狭かったと思います。
  - ・粘土をこねる機械やその他道具が揃っていてよかったです。
  - ・もう少し広いスペースで制作できるとやりや

すいと思います。

- ・ 北側扉が閉まりにくい。こわれてる？

## ②授業内容について感じたこと

- ・ 粘土での作業は、本当に楽しかった。
- ・ 自分にとって、デッサンでは難しい空間感の意識をもつことができたと思う。
- ・ 普段では絶対に出来ない石膏取りができて貴重な体験になった。よかった。
- ・ けっこう自由に考えさせて下さってるなと感じました。
- ・ 制作の幅が広がったと思う。楽しかった。
- ・ 進度に合わせて指導して頂いてとても助かりました。
- ・ 立体造形の難しさを感じました。
- ・ 良い経験ができました。勉強になりました。
- ・ 塊として見ること。
- ・ 見方がちょっと解った気がする。
- ・ やさしく、くわしく説明してもらえたり、充実した作業ができたのでよかった。
- ・ たくさん内容があったのですが、やはり粘土でのかたちづくりが一番楽しく充実していました。
- ・ いろいろな段階での追究度を上げることが、大切だと思った。集中が切れたところは後まで、問題点として残った。
- ・ 自分のペースで進めることができ、作品と向き合う時間も多くとれたので、よかったと思う。
- ・ はじめてのことで学ぶことが大変多くて、説明についていくのがやっとでした。

## ③ 今回学んだこと、それを今後どのように生かしたいか

- ・ 形を把握する。見方。
- ・ 全体を見る！ということが少し実現できた。
- ・ 全体をとらえる意識を常に持って制作していきたい。
- ・ 「始めから似せようとしないうこと」という意味。目的ではなく「結果的に似る」ですね。
- ・ 授業態度をきちんとしたいです。
- ・ 取り組み方の大切さを学んだ。
- ・ 基本の大事さ。
- ・ デッサンや作品作りに生かしていきたい。
- ・ 「部分」が集まって「全体」が出来ているのではなく、「全体」の中に「部分」があるという見方。
- ・ 頭の中で立体的に想像したい。
- ・ ものを内側から組み立てるということ。今

までは外形、外観にとらわれていた。

表面的すぎた。

- ・ 粘土での立体デッサン。
- ・ 合評会は、勉強になりました。
- ・ 立体の制作をしてみて、今までは二次元的な見方をしていたことに気付いた。それをかえてみたい。
- ・ 立ち直れないくらい大きな失敗をしないために、小さなミスを恐れず、思い切って進むこと。部分にとらわれすぎて、全体を見失いがちの自分。
- ・ 立体の造形は、量塊の組立を意識すること、バランスが基本だとおもった。
- ・ 湿った状態の石膏作品を持って帰るのは、重く過酷です。

## 8. まとめ

施設・設備については、スペースの狭隘さがいつも問題点として上がっていた。今回、根本的な解決が図られた訳ではないが、制作作業動線の合理化を進めた結果、少しの改善が成ったと思う。さらに検討し、有効な空間利用をはかりたい。

授業内容については、多くの学生にとって未経験の取り組みであるが、基礎をしっかりと学びたいという前向きな気持ちもあり、効果的であったと思える。